

## 北海道ヨタヨタ道中記

### いざ札幌へ編

齊藤金藏

ニユースが北海道の脱線事故を伝えていた いやな予感

どう見ても二日か三日は復旧にかかるだろう

せっかくの計画がオジャンになるのか 今回は諦めるしかないのか

とにかく駅へいつてみなければ 兄の車でむかう 兄の自慢の3ナンバーだ

二戸の天気はよかった 朝方は冷えて寒いぐらい 薪ストーブの登場となる

何年か前に灯油が値上がりした時 薪ストーブが普及した

火のつけ方が昔と大違い 新聞丸めてなんて 古い 古い おが屑に灯油

を染み込ませておいて 薪にかけて マッチをすってほうりこむ

初めてみた時はまるで魔法を見ているようだった

いよいよ二戸駅

エレベータに乗って二階へ 改札口 駅員が特っていた そして叫んでいた

特急券は払い戻しします また明日来てください

簡単に言ってくれるぜ

テレビではフェリーで函館に行く人々を映していた

今日は青森までとは思っていたが 函館に着いてから面倒そうなことを言う

この駅員はうさんくさいところがある JRにとりこむ魂胆がありそうだ

とりあえず今日は撤収しよう 明日が勝負だ

今回の旅行はあることを確かめることにある

それは札幌にいた時に働いていた職場がどうなったか知りたかった

あまりいい会社ではなかったけれど

約十年がまんして働いた 辞める時は一大決心が必要だった

三十五歳だった その決断が正しかったのか

どうかも確かめたいという淡い希望というか

青い春の残骸があるので

いずれは明らかにしなければと思う…

金を借りておいて返さない人々がいる 困ったものだ

それは国家であれ個人であれ それはまずいだらう

困っていそうだから貸してあげただけである 人道的立場から

返せないかもしれないなら最初に言ってくれ

利息をつけて返すと言ったから貸したのだ

信義に反する 人の道にも反するだらう 仁義に反する

約束は守らないのか それが許されると思うのか

何様のつもりか そんなに偉いのか バカにするな

それを踏みにじるのは許されない

感謝という言葉を知らないのか

裏切りだらう ただでは済まないことを覚悟すべきである

それはハレンチな行為だ 倍返しされても文句言えないだらう

おとしまえをつけてもらわなければならぬ 指をつめるとか…

金にだらしない人だった 金にずぼらだからこうなった

突き放すのだった はっきり断ればよかった

あの時 はっきりと断ればよかったのだ

大きな声でイヤだと言えばよかった

義理立てする必要などなかった

まったくの赤の他人なのだから

その時 闇のはてから声がした

だんだん大きくなってきた

地響きのようになった

ダレかが叫んでいる

鬼二ナレ 鬼二ナルノダ

出た 鬼が

こんなところに鬼がいた

鬼二ナレ 鬼だ 何を遠慮している 遠慮は命取りになるぞ

仏心はいらない お金を回収するためだ

鬼にならないと回収は無理

鬼になれないなら善人ぶって他人に金を貸すな

どうする どうする

覚悟を決めろ

パーになるぞ アッパツパのパーだ

泣き寝入りか

それでいいのか

それでいいのか

困ったからと言って自業自得 自己責任である

簡単に同情してしまう癖があった 断るのが苦手だった

助けなければと勝手に思い込むところがあった

私には根本原因がわからないのだから

貸したら回収をどうするか 考えるべきだった

個人が回収することが大変なことか わかっていなかった

涼しい顔をして踏み倒すつもりか ふざけるな

回収など頭になかった

黙っていても返してくれるとばかり思っていた

それが男の約束だ 男の約束を破るのか

それが五年が過ぎて 十年が過ぎ 二十年が過ぎた

もしかしたら もう返さなくてもいいと思っているかもしれない

今にして思えば キヤラ キヤラした キヤラ男だった

哲学に限界を感じるから社会学をやりたい もう啞然だ

やっぱりあなたは福田定良をわかっていないな 泣いているよ

それでリーダになりたかったの？ 何もわかっていないな オバカサン

もしかしたら金は天下のまわりもの位しか思っていないかもしれない

ならまわってくるまで待つていればいい 五年でも 十年でも 人に借りるな  
いつの時代でもめだつことは若者にとって大事なことだったらしい

アジ演説うまい奴がいたけどどこかで練習していたのか  
女にもてることにつながったのかな

あなたは長髪にパーマをかけてましたね あのパーマは何だったのですか  
カツコつけたかったのか 女にどれだけでもましたか？

お金 料金はいくらでしたか？

さぞ高かったでしょうね

活動家らしかぬ格好だったと記憶しています めだちたい野心まるだし  
あなたには思想性はなかった もうバレバレなのです

それなのに籠城なんかして

実刑くらって大変でしたね 大切な髪はきられるし

まるでピエロみたい

それでも本人は革命家気どり 前衛気分

もう笑うしかない

再び二戸駅

もう駄目かと思っていた列車が動くという 何か起きたのか

一日で回復するとは信じられない

新たに特急券を購入してしばしの時間待ち いよいよ札幌にいけるぞ

何年ぶりだろうか 私もわからない

そろそろホームに行ったほうがいいのでは

兄の言葉に従がつてホームに降りることにする

ここで兄とはお別れである 八月に来ることを告げた

二戸をでるとすぐに青森に入る

青森に入って寺山修司のことを考えていた こんな経験は初めてである

青森の風土で育った この空気を吸って 寒い 寒い場所 津軽

彼は真面目な男である 山田太一が無二の親友だった

長谷川龍生を思いのほか高く評価している

寺山が死んでどれほど経つのか いま思い出した

天井敷の札幌公演が中止になった時だ

オレが札幌から東京へ出できた時さ 吉幾三になった

あれから二十八年なるのか

そうこうしているうちに新青森駅に着いた

ヨタヨタ歩いていくと意外なほど簡単に乗り換えができた  
乗り換えが難関ではないかと勝手に思い込んでいた

こんど乗るのは白鳥だ　こんな列車に乗ったことがないぞ

しかしトンネルは利用している　どこかでダイヤの改正があったのか  
頭が混乱してきた

函館へ　いよいよ北海道に突入だ

何年ぶりか思い出せない　何回目になるのか

青函トンネル前に短いトンネルがある　名前のあるもの　ないもの

何か不公平を感じてしまう　昔水漏れ事故が起こっていると聞いたけれど  
なくなつたのか

いよいよ脱線事故の現場へ　スピードが落ちて徐行を始めた

新聞用紙のロールの積み方に問題があつたとか

おいおいしつかりしてくれよ

函館に着いてみると隣に札幌行きが止まっているではないか  
えい乗ってしまえ

自由席へヨタヨタとすべりこみセーフ

これで時間がかなり節約できるぞ



やっとここまで来たか あともう少しだ

急に腹が空いてきた 函館で食べるはずがこうなってしまった

乗る前に買えばよかった あとは我慢する がまんして 我慢してありついたのは  
それからしばらくしてからであった

空は青いし これぞ 北海道という風景が出てきた 今まで見たことがない

牧場だ 名前はわからない 子馬さんが眺めている いいな ダービで勝ったりして  
夢があることはいいことだ

こんどはじゃがいも畑だ ととてもとて広い しろい花を咲かせている  
どこまでも広がっていく こんな風景初めて見る

じゃがいも畑の次は何だ

牧草地が出てきた カールになったものがあちらこちらに転がっている  
いかにも北海道だ もう冬に備えている

札幌に着いたら大通公園で焼きとうもろこしをたべてみたい

注 福田定良 元法政大学教授 哲学者 故人

彼は哲学をするをヒントに哲学をとことん考えようとした

「哲学のすすめ」 「おんなの哲学」等がある